

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 ～心豊かにたくましく生きぬく力を育てる～						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 子ども一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回程度は、漢字の小テストを行い、定着を図る。 全国的に使用されているワークテストを活用し子どもたちの基礎的、基本的な力をよくみとる。 学びを楽しみ、認め合える授業づくりをすすめる。 全学年が授業力向上のための授業公開を1回以上する。 気になる児童校内把握シートを活用し、支援方法を検討するとともに、校内研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字大テストで学年平均が80点を超える。 全体の平均点が85点を超える。 児童アンケートの「授業がわかりやすく楽しい」⑬「先生は教え方を工夫している」⑮で80%以上の回答。 学力向上のための全校公開授業数が6回をこえる。 校内研修を年3回以上行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 6学年のうち5学年が目標を達成した。普段からの漢字の学習の積み重ねができています。 6学年のうち4学年が目標を達成した。普段からの積み重ねもできています。 85%で数値目標は達成できているが、残り15%の児童の困難さに目を向ける取り組みが必要。学校全体でどうするかを行動に移して取り組む必要がある。 研究授業に関する研修や小中合同の研修会など定期的に機会を設けられている。成果を期待した取り組みにしていくための時間の確保が必要。 ひまたん研修会2回(前期・後期)、夏季研修(気になる児童について支援方法の検討)、昆陽バル(進路について)の計4回実施し、子ども一人ひとりの個性や能力に応じた教育について理解を深めることができた。気になる児童校内把握シートの活用方法については検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な小テストや普段から漢字を活用した書くという活動を計画して取り組み継続して行っていく。達成できなかった学年の課題を検討し、来年度に向けて具体策(小テストの反復など)を実施する。 定期的な小テストや普段から学習理解ができていない児童を中心に個別の学習指導を行う時間を設けるようにし、学習が遅れないように配慮する。達成できなかった学年の課題を検討し、児童の苦手意識の高い単元の反復練習を行う。 定期的に授業内容や朝学習の短時間指導を教師間で共有し、分析と検討を繰り返しながら授業力の向上と授業の改善を目指す。定期的に分析・検討を行うための時間の確保を教師側が意識し、長期的な視野を持って継続的に進める体制づくりを実施する。 チェックシートをもとに気になる児童を挙げる方法を個別の指導計画に一歩化することで、支援のプレをなくす。チェックシートを反映させると個別の指導計画が作成しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善策をもっと具体化すると、次年度に効果が表れると思われる。 子どもたちにとって苦手意識の高い単元は何なのか、各学年において明らかにする必要がある。
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。 読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の机に向かう意識向上と保護者の関わりをより促すよう、がんばりカードの形式を改善する。 児童の興味関心を引き出すような図書を選定を行い、図書室の環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「家庭において目安の時間～低30分、中60分、高90分～」で80%以上の回答。⑦ 児童アンケートの「読書をしている」で90%以上の回答。⑥ 	C	<ul style="list-style-type: none"> 3年続いて、目標に達成していない。達成している児童が6～7割が現状となっている。放課後の時間の過ごし方にも格差があり、学校からの効果のある啓発が必要。 昨年度の「進んで読書をしている」が80%に対し、今年度は82%であった。さらに読書に取り組める児童が増えるよう取り組んでいかなければならない。 巡回図書で、児童の興味を引き出したり、授業に活用できたりする本の選定ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習ががんばりカードなどを活用し、保護者への協力の啓発と努力している児童を賞賛する機会を積極的に設けることで学習への意欲を全体的に高めていく。 意図的に読書の時間を作る。(家庭学習や給食の待ち時間、学習のすき間時間など)委員会活動を通して、図書に親しむ取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の啓発の仕方を、PTAと連携して保護者の協力を得るように対策を講じる必要がある。 意欲をもたせるような取り組みを継続して欲しい。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 学年、異学年交流の活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回アンケートを実施し早期に対応する。 学年活動やきょうだい学級での異学年交流を年に3回以上設け、交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」、「学校行事は進んで参加している」で90%以上の回答。①③ 児童アンケートの「同じ学年や他の学年の人たちと関わっている。」で、90%以上の回答。⑨ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「学校に行くのが楽しい」87%、「学校行事は進んで参加している」97%の回答。 常に部会等でいじめや問題行動等への周知や指導のポイントを共有していることで未然防止に努めることができています。 課題は、年2回のいじめアンケートで、担任が改めて気づくケースも多かった点。 児童アンケートの「同じ学年や他の学年の人たちと関わっている。」で、88%の回答。異学年交流を4回実施できたが、交流を意識している児童の割合が目標値には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、生活指導上の問題行動が多いことから、未然防止や対応力の向上・児童が相談しやすい学級風土づくりに繋がる職員研修の充実や職員間での「報告・相談・連絡」の徹底に取り組んでいく。 感染症対策に留意したルールに基づいて、来年度から異学年交流の回数をコロナ禍前の状況に戻し、更なる交流の場を積極的に作り、交流活動を浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについては、アンケートの結果を引き続き丁寧に見て欲しい。
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣を育む態度を育てる。 児童の健康の保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> みんな遊びやドッジボール大会を計画し、休み時間に外へ出て遊ぶことを推奨する。 こやチャレを計画・実施し、スポーツを通して体を動かす機会をつくる。 給食完食調査を実施し、偏食せずにバランスよく食事をするのは健康な体作りにつながることを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「週1回は、外遊びをしている」で90%以上の回答。⑩ 年間2回こやチャレを実施する。 保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている」で90%以上の回答。⑪ 週1回の給食完食調査で、完食80%以上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「週1回は、外遊びをしている」で81%の回答で、目標値には至らなかった。 高学年は週1回も外遊びをできていない児童が多い。(6年24%、5年35%) 保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている」で93%の回答。 スポーツ委員会を中心に、こやリンピックを2回実施することができた。 コロナ禍でもあり、子どもも保護者も健康な生活を意識して過ごしている。 給食完食調査では、16クラスにおいて80%以上完食できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の実施だったので、スポーツ委員や高学年を主体に実施回数、実施方法について考えていく。 各クラスでの「みんなあそび」を啓発、推奨をしていく。 栄養バランスが良く考えられている給食を偏食せずしっかり食べることは、成長期である子どもたちの健やかな成長発達につながるので引き続き取り組み。 食事だけでなく、運動や睡眠も健康の保持増進には欠かせない為、運動や睡眠の大切さも伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びはコロナ禍で難しくなったのではないかと。来年度の目標の定め方を考えて欲しい。 5.6年のスポーツテストの数値を達成目標に入れてはどうか。

	不登校児童への対応	・不登校の未然防止と改善を図る。	・支援が必要な児童については、別室等で個別支援を行う。 ・毎日、未連絡児童(不登校傾向)については家庭に連絡を入れ、実態把握及び保護者との連携を図る。	・児童アンケートの「学校に行くのが楽しい」「困ったときに、相談できる先生がいる」「授業はわかりやすくてのしい」で90%以上の回答。①⑩⑬ ・保護者アンケートの「学校に楽しく通っている」「先生に子どものことを相談しやすい」「学校は保護者の願いに応えている」で90%以上の回答。①⑨⑫	B	・児童アンケート「困ったときに、相談できる先生がいる」86%は昨年度に比べ5.1%上昇、「授業はわかりやすくてのしい」85%の回答。 ・保護者アンケート「学校に楽しく通っている」94%、「先生に子どものことを相談しやすい」85%、「学校は保護者の願いに応えている」91%の回答。 ・不登校児童全体の44%の児童が別室及び教室復帰を果たすことができた。また、遅刻や未連絡児童の数が減り、実態把握ができています。 ・課題は、職員による不登校児童への個別及び状況に応じた支援方法や連携のあり方。	・様々な理由や家庭背景がある児童について、教員の理解や関わり方を深め、質を高める研修の充実や、職員間が効果的に連携が取れる体制づくりに努めていく。	・教室に行けない児童の見守りを地域人材でケアできるような体制ができないか運営協議会で考えていく。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校便りを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを週1回以上更新し、日々の活動や行事を通して学校の様子を伝える。	・学校だより、学年通信を月1回以上発行する。 ・学校ホームページを週1回以上更新する。 ・保護者アンケートの「学校は、お便りやホームページなどを通して教育活動の内容や様子を知らせていることを知っている。」で90%以上の回答。⑬	A	・学校だより、学年通信共に月1回以上の発行をすることができた。 ・曜日毎に分担を決め、週1回以上のHP更新を継続して行うことができた。 ・R4年度保護者アンケートにおいて、A及びBの回答が98%を占めた。	・学校HPを通じた教育活動の情報発信を継続して行うことができ、多くの保護者の認知を得ることができている。 ・今後も学校内で役割の分担などを行い、現状の体制を崩すことなく、学校の情報を積極的に発信できるようにしていきたい。	・情報発信は継続して行っていただきたい。地域住民としても学校の様子がよくわかる。
	学習環境の整備	・安全点検を実施し、安全教育の推進を図る。	・学期末の清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 ・起こりうる危険を想定し、毎月の安全点検で事故の未然防止を図る。	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で90%以上の回答。⑩	A	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で94%の回答。昨年度より6.3%上がった。 ・日々の清掃活動及び学期末の清掃習慣を通して、校内をより美しくすることができた。 ・毎月の安全点検により、修繕箇所を把握し、未然に事故を防ぐことができた。	・これからも職員が児童と共に清掃活動を励み、校内の環境美化を継続していきたい。また、毎月の安全点検も怠らず、未然の事故防止に努めていきたい。	・継続して安心安全な教育環境を作っていただきたい。
	保護者・地域との連携	・地域との交流を図る。	・地域の人材や資源を活かした学習を計画し実施する。 ・学校運営協議会の開催。 ・地域の水田ビオトープで発達段階ごとに米作り体験を行う。 ・授業参観等は、コロナ禍の状況を鑑みて分散開催を基本とし、保護者が参加しやすいように日程を調整する。	・心の匠や地域の方を講師として招いた授業を校内で6回以上行う。 ・協議会を年3回実施する。 ・代掻き、田植え、稲刈りの体験活動を行う。 ・保護者アンケートの「学校は保護者が授業や行事などを参観できる機会を適切に設けている」で90%以上の回答。⑭ ・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で90%の回答。⑮	A	・スポーツの語源やこま回しなど年4回、町の先生を講師として招いたり、校区内の店舗等を見学させてもらう等、体験的な学習を実施できた。 ・人生経験が生かされたお話や体験活動を児童が経験することができた。 ・2学期までに2回実施できた。3学期に3回目を実施予定。 ・地域の方や保護者の協力のもと、1・2年生は代掻き、3・4年生は田植え、5・6年生は稲刈りを全学年が関わって米作り体験を実施することができた。 ・保護者アンケートの「学校は保護者が授業や行事などを参観できる機会を適切に設けている」で96%の回答。 ・分散開催が定着し、参観時間は短かったが計画回数、実施することができた。 ・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で93%の回答。 ・過去3年間で初めて9割を超えた。	・各学年1回程度の実施を考えていたが、実施に至らなかった学年が多かったため、年間計画に入れるなどして地域人材を生かした学習が実施できるように努める。 ・地域との関係がコロナ前に少し戻りつつあるので、あいさつ運動なども取り組みに入れていく。 ・米作り体験だけではなく、生活科の公園たんけんや理科の発芽の学習等、各学年が教科学習と関連させて自分たちが関わる水田ビオトープだと意識づける。 ・感染対策を講じたうえでコロナ禍の状況を鑑み、参観者の人数制限等を定期的に検討し実施していく。 ・参観授業だけでなく、廊下や階段の掲示を通して普段の様子もより伝えていく。	・コロナ禍で開催しにくい部分もあったにもかかわらず工夫して開催できている。
学校関係者評価総括	<p>・目標設定に対して具体策がわかりにくい部分がある。学校全体で課題を共有し、来年度改善できるような具体策を考えていく必要がある。</p> <p>・コロナ禍で通常の日常を行いにくい中で、工夫しながら保護者・地域の願いにこたえている。</p> <p>・学校運営協議会としても、令和5年に向けて課題解決に向けてアイデアを出していきたい。</p>							

重点年度に改善けた点	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実 ・具体的な授業改善策
------------	--

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標通りに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った